



かまはら やめし
蒲原環境保全委員会（福岡県八女市）

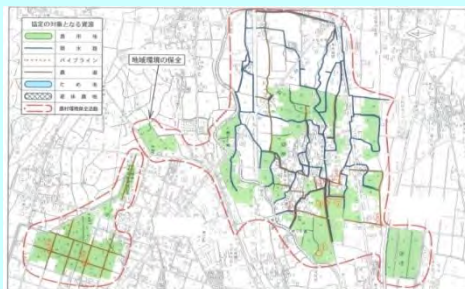
- 福岡県南部の住宅地と農地の混在化が進む水田地帯。集落排水を兼ねた農業用水路が集落内を数多く流れ、非かんがい期は水質の悪化や悪臭が発生していた。
- 本制度により、活動組織が用水の流れを調査し、その結果をもとに水門等の管理を行って維持用水を確保。
- 活動開始以前に比べ、非かんがい期の通水量が増加し、水質や悪臭が大幅に改善。魚が多く生息するようになり、非農業者を含む地域全体で環境保全に取り組む意識が向上。

【地区概要】

- ・取組面積 49ha（田23ha、畑26ha）
- ・資源量 開水路12.0km、農道7.5km
- ・主な構成員
水利組合、行政区、消防団、生産組合、子供会
- ・交付金 約3百万円（H29）
- 〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、福岡県南部の住宅地と農地の混在化が進む、平地農業地域の水田地帯。
- 集落排水を兼ねた農業用水路が集落内を数多く流れ、非かんがい期は、かんがい用水の通水がないため、水質の悪化や悪臭が発生していた。
- また、農業用水を非常時の防火用水として、初期消火に活用していたが非かんがい期には用水量が不足していた。



【集落内を数多く流れる水路】

取組内容

- 活動組織を発足し、集落全体の用水の流れを調査。
- 非かんがい期は全体に水量が少なくなるが、調査結果をもとに水門等の適切な管理を行って、維持用水を確保した。
- また、非農業者も含めて、非かんがい期に水路の清掃活動を行っている。



【非かんがい期の水門操作】

取組の効果

- 非かんがい期の集落内水路の通水量が増加。
〔 非かんがい期に通水している水路延長
H19年度:3.6km ⇒ H29年度:10.8km 〕
- 水質や悪臭が大幅に改善され、水路にはハヤ・メダカ等が多く生息するようになった。また、非常時の防火用水も確保。
- 活動には非農業者が多く参加しているため、地域全体として環境保全に取り組む意識が向上。



【非かんがい期の水路清掃】



混住化が進む地域における防災・減災等の多様な取組の展開

いわさき

岩崎農地水環境保全組合（大分県宇佐市）

うさし

- 本地域は、宇佐市の東部に位置しており、東西を寄藻川と向野川に囲まれ南に山を背にしたほとんど高低差のない地形で、50ha程の水田を有する人口500人程の農業集落である。
- 混住化が進む中で、集落の農業資源を次世代へ繋ぎ維持管理していくためには、非農業者の意識を改革し区民全員が参加した活動が必要と判断し、平成24年6月に「岩崎農地水環境保全組合」を自治会の下部組織として設立した。
- かつては、農業者による最小限の管理作業しかできなかったが、組織の設立により多くの参加者で様々なアイデアを出し合うことにより、防災・減災や生態系保全活動、学校教育との連携等の多様な活動が行われるようになり、地域の活性化にも貢献している。

【地区概要】

- ・取組面積 47ha（田47ha、畑0.04ha）
- ・資源量 開水路 15.5km
農道 20.0km
ため池 1ヶ所

- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会
婦人会、消防団、宮世話
- ・交付金 約355万円（H29）

（ 農地維持支払
資源向上支払（共同）
資源向上支払（長寿命化） ）

活動開始前の状況や課題

1 防災・減災

古来より海岸線の埋め立てによって形成された低地に位置する地形条件のため、過去に幾度かの水害に見舞われ、時には死者も出ている。住民は非常に水害に敏感で、機会あるごとに対策を打ってきたが費用の面もあり行政に頼るしかなかった。

2 生態系保全

集落の外縁に位置する2つの河川からの用水の取水部分に、生態系に影響を及ぼし特定外来生物に指定されているオオフサモが繁茂。市内の環境団体等により細々とした駆除活動を行っていたが十分ではなかった。

3 学校教育等との連携

子供たちに農業体験をさせたい農家は多かったが、個人の農家で行うには負担が大きく、小学校等への声かけもしにくいと断念していた。

取組内容

1 防災・減災

水害防止活動を行う「自主防災組織」を設立するとともに活動組織の役員に防災担当を設置。さらに、「水を集落へ入れない、入ったら出す」を合言葉に5年間の戦略を作成し、これに基づき水害対応時の各者の役割分担や水門等の操作方法について検討を行った。

2 生態系保全

重機を使い2tダンプ3杯分のオオフサモを駆除。

3 学校教育等との連携

・麦や大豆の播種・収穫等体験（北馬小学校）

4年生11名 麦播き、麦踏、収穫等

3年生14名 枝豆の収穫

・田植え・収穫体験、餅つき大会（子供会）

食育の一環として田植えから食するまで一連の流れを体験



取組の効果

1 防災・減災

過去7年間の上流域の雨量及び河川水位データを用いた解析結果を踏まえ、降雨時における水害警戒体制や堰・水門等の操作方法が確立されたことから、これ以降は大雨が降っても水害は発生していない。

また、地域住民が水路の泥上げや清掃、雑木切り等の管理作業に参加することを通じて水路の持つ水害防止効果を実感できるようになり、非農業者の参画が増加した。

延べ参加者数 H24:476人→H28:974人

2 生態系保全

大掛かりなオオフサモの駆除作業を行った結果、これ以降は日常の管理の一環として手作業で容易に駆除することができるようになった。

3 学校教育等との連携

農業体験を通じた交流により、子供たちには農業や共同活動に対して興味を持ってもらえ、イベントへの子供の参加者数が増加するなど地域内のコミュニティ強化にもつながっている。